

平成 24 年 12 月 25 日

# 南 の 風 2 4

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

先日のレインボーカップ（私が理事を務めております大会）では、永田台ビーバースの選手に体調不良者が複数出てしまい、男女とも棄権を致しました。各チーム及び関係者の皆様には、大変ご心配とご迷惑をおかけ致しました。幸いなことに、大事には至らず選手全員元気に活動しておりますので、ご安心いただきたいと思います。

さて、23日に横浜バスケットボールフェスティバルが文化体育館で行われました。今年もミニから高校までの選抜の選手、バスケットボール関係者の皆さん、応援見学の選手、保護者の皆さんの熱気で文化体育館は大盛り上がりでした。まずはこのバスケットボール熱を外へ向けて発信したいと強く感じました。バスケットボール競技のもつ特性と楽しさをより多くの方に知っていただき、バスケットボールが日本全国の中で、メジャーなスポーツになってほしいという思いを改めて持ちました。

また、ミニから高校までのスキルにおける縦のつながり（特に指導者間）を、さらに強めていきたいという思いも併せて持ちました。選抜の交流戦（ミニから高校のゲーム）を見ての感想を書きます。

いろいろあるのですが一つに絞ります。それは「パス」です。まずパスの種類について触れます。チェストパスがゲーム中に使われる場面は極端に少なくなりました。チェストパスの功罪について書きます。

## 《チェストパスの利点》

- 1 速く、強いパスが出せる。
- 2 ノーマーションで出せる。（ミニの場合は難しいこともある）

## 《チェストパスの欠点》

- 1 ディフェンスに読まれやすい。
  - 両手でパスするため、パスコースが限定される。特にポストに入れるパスとしては最悪のパスとなる。
  - 身体のトルソーからでるパスなのでディフェンスにカットされる確率が高くなる。
  - パスする時、向き替えをするのでディフェンスされた状態では、一瞬パス出しが遅れることがある。

以上が考えられます。

アメリカでは現在でも、NBA選手によるサマーキャンプで、「速く強いパス」を目指してチェストパスが、基本のパスとして子供たちに指導されています。

海外の指導者からは、「日本の選手のパスは遅くて弱い」と指摘されることが多いです。チェストパスについての指導の在り方については今後の課題の一つです。

次に、他のパスの種類についてです。スキルの発展としていろいろな種類のパスがゲーム中に使われますが、指導者が意識しなくてはいけないことは、ディフェンスに読まれないパスの出し方を選手に身につけさせるということです。一つはディフェンスとのタイミングのずれを作ること。2つ目はパスの出所を瞬時に変えることです。具体的な種類や、パス練習のやり方については次号とします。